

令和2年12月15日

厚生委員会資料

病院事業局

目次

[報告事項]

- 1 富山まちなか病院の運営状況について 1頁

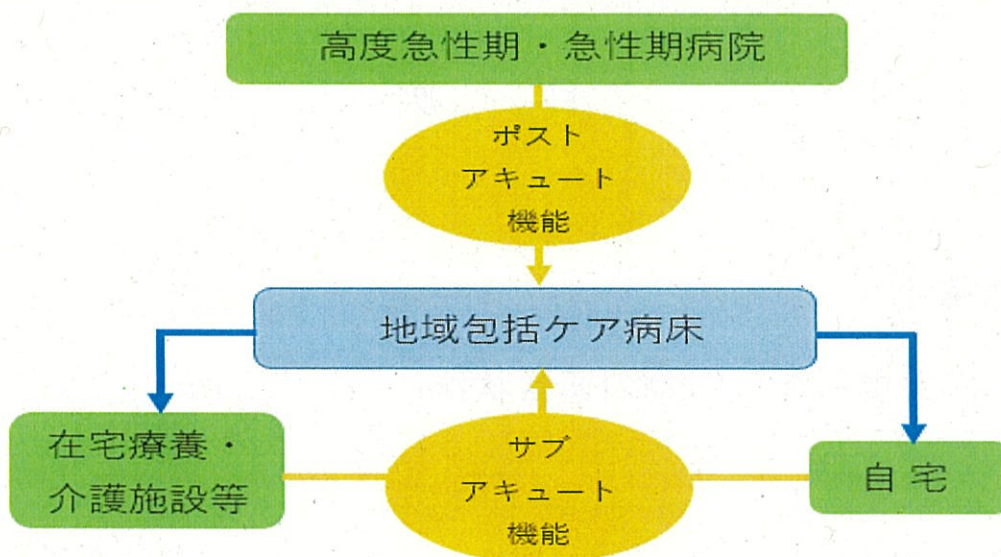
富山まちなか病院の運営状況について

1 富山まちなか病院の役割

富山まちなか病院では、今後、医療圏において不足すると予測される回復期病床を確保し、市民病院をはじめとした急性期病院の後方連携病院としての役割を担うため、令和2年8月に国から地域包括ケア病床の認定を受けました。

地域包括ケア病床については、平成31年4月に日本郵政株式会社から旧富山逡信病院を譲り受ける際の計画として予定していたものであり、今後とも市民病院との連携を密にし、患者の治療を病院間で分断しない、シームレスな医療を提供し、市民の生命と健康を守ります。

富山まちなか病院 イメージ図



両病院の連携

患者の治療を機能間や病院間で分断しないシームレスな医療の提供

急性期医療を担う地域の中核病院

【市民病院の具体的な役割】

- 地域のかかりつけ医や中小病院からの紹介による、専門性の高い医療を必要とする疾患の診断と治療
- 介護施設等からの二次救急に相当する重症且つ緊急性の高い患者の受け入れ
- 災害医療等の政策医療への対応

急性期病院の後方連携病院

【まちなか病院の具体的な役割】

- 転院の受け入れを「断らない病院」「可能な限り前方病院のニーズに合わせた転院受け入れを行う病院」
- 在宅復帰の機能を十分に発揮できる、リハビリ機能や退院支援機能の充実

2 富山まちなか病院の取り組み

富山まちなか病院の基本理念

私たちは 市民のいのちを守り 健康な暮らしを支えるために
地域に開かれ 地域に密着した 地域のための病院 をめざします。

私たちが大切にしているもの

1. 安全・安心を心がけ やさしさと思いやりの心を大切にします。
2. 患者さんの尊厳を守ります。
3. ご家族にも配慮した 親切でわかりやすい医療を提供します。
4. 地域の皆さまとの対話を通じて 開かれた医療を実践します。
5. 常に研鑽に努め 最善の医療を提供します。
6. 介護・医療機関と連携して 地域医療に貢献します。

シンボルマーク



年 月 日	内 容
1964(S39).7.25	旧富山通信病院 開設
2018(H30).12.26	富山市と日本郵政㈱間で譲渡契約書締結
2019(H31).4.1	富山まちなか病院 開設
2019(H31).4.26	職員公募による病院ロゴマーク決定
2019(H31).11~12	ふれあい健康講座開催
2020(R2).3.24	リハビリテーション室の増床工事完了
2020(R2).4.1	リハビリを提供するスタッフ3名増員(市民病院から異動)
2020(R2).8.1	地域包括ケア病床に転換(41床) 一般病床5床 計46床

リハビリテーション機能の強化

地域に根差した病院運営



リハビリ室①



クリスマス会



ふれあい健康講座



リハビリ室②



節分行事



無料糖尿病教室

3 取り組みの成果

まちなか地区における地域包括ケアシステムの充実

病院開設後、積極的に開業医や医療施設等を訪問するなど、地域と緊密に連携し、在宅療養者の急変時の対応をはじめとした在宅医療の一層の充実・推進を図り、地域包括ケアシステムの充実に努めました。

紹介患者数等の実績比較(8月~10月)

入院紹介患者数 66人(R1) → 108人(R2) 42人の増 63.6%増加

在宅復帰率 59.6%(R1) → 73.6%(R2) 14.0ポイント上昇

病床機能の転換と入院患者等の増加

医療圏で不足する回復期病床に転換し、市民病院のみならず市内の急性期病院全体の受け皿となれるよう、リハビリ機能や退院支援機能を充実させ、在宅復帰の機能を高めたことにより、入院患者数は大幅に増加しました。

入院患者数等の実績比較(8月~10月)

入院延患者数 2,392人(R1) → 3,599人(R2) 1,207人の増
50.5%増加

入院収益 67,473千円(R1) → 112,631千円(R2) 45,158千円の増
66.9%増加

経費削減の取り組み

病院内で使用する医薬品については、病院開設時からジェネリック医薬品(後発医薬品)の利用を積極的に推進することで、経費の削減に努めました。

経費比較(8月~10月)

薬品費 42,712千円(R1) → 33,349千円(R2) 9,363千円の減
21.9%削減

ジェネリック医薬品使用割合
68.9%(R2年5月) → 88.9%(R2年11月) 20ポイント上昇

4 今後の課題や必要な取り組み

【課題1】 外来機能の強化

初診時に紹介状が不要であることなど、まちなか病院の持つ機能や魅力を、地域住民並びに市民に積極的にPRすることで、外来患者や健診・ドック受診者の増加を目指します。

また、市中心部に位置し、徒歩や公共交通の利用により来院できる地理上のメリットを活かし、市民がより利用しやすい環境づくりを進めます。

<今後の取り組み>

- 開業医の皆さんとの信頼関係の構築を図ります。
- 出前講座などで、地域住民並びに市民に病院の特徴や魅力を伝えます。
- コミュニティバスのルート見直しに伴い、病院西側にバス停が設置されることから、バスを利用して来院される患者のための環境の整備を検討します。



まいどはやバス

【課題2】 訪問診療や訪問看護など地域包括ケアシステムの強化

退院後に在宅でも医療やリハビリを受けられることができるよう、訪問診療を実施しているまちなか診療所等との連携を強化し、訪問診療や訪問看護をはじめとする在宅医療を提供することも検討します。

<今後の取り組み>

- まちなか診療所や在宅医療を提供する診療所との連携強化
- （仮称）健康フェア等の企画イベント開催の検討

【課題3】 市民病院も含めた病床の再編と施設老朽化への対応

2025年に向けて富山医療圏では急性期病床が過剰となり、回復期病床が不足するとされており、今年度、市民病院では急性期病床50床を減床、まちなか病院では41床を回復期病床へ機能転換しました。今後、両病院の機能や資源を最大限に発揮出来るよう、引き続き病床の再編を検討する必要があります。

まちなか病院は、築後56年を経過し、施設の老朽化の激しいことから、その対応策を講じる必要があります。

<今後の取り組み>

- 両病院間や近隣の急性期病院、回復期病院との速やかな連携を図り、患者の治療や療養を分断しないシームレスな医療を提供します。
- 両病院ともに早期の収支改善を図り、「地域医療への貢献」と「病院の健全経営」の両立を実現させ、市民病院からの病床移転や建て替えを含めた回復期機能の拡充を検討します。